

パブコメ意見例

(注) 下記意見例は、「元気な日本復活特別枠」要望に関するパブリックコメントにおいて、国立大学に係る事業について、「3. その他この事業に対する評価(よい点)」及び「4. その他ご意見」欄に意見を記載する際の参考として、国大協事務局において種々の意見例を作成し、アトランダムに列挙したものであり、適宜ご参照の上、実際の意見の提出に当たっては、各自のお考えに従って記載して頂くようお願い致します。

(事業番号：1907)

(事業名) 元気な日本復活！2大イノベーション(要望額：788億円)

◆ 再生医療の実現(50億円)

(教員)

- 研究のステージごとの支援ではなく、「再生医療の実現」という切り口で、文部科学省と厚生労働省が連携し、基礎研究から応用研究まで一貫した支援を行うことは画期的。再生医療の実現という目標を達成するためには極めて効果的。期待大。
- iPS細胞の研究を実用化するためには、最先端の研究を実施するだけでなく、その知財の管理の徹底や実用化にむけた基盤の整備を実施するべきである。その意味で本事業は有効。
- 生命動態システム科学については、生命科学と計算科学を融合した新しい取組であり、世界的に注目を集めている分野。我が国にも優秀な若者が多く期待の分野なので、今後支援を充実させるべき。

◆ 次世代がん医療の実現(38億円)

(教員)

- 科研費の特定領域から「がん」がなくなってしまったため、研究者の散逸が懸念されている。本事業により改めてオールジャパンの研究体制が整うことを期待する。
- この事業を歓迎する。がん研究は、過去10年で、基礎分野においては成果が出てきている。国として、研究開発のロードマップを描き、実用化に向けたがん研究の推進方策を作り、戦略的に取り組むべき。

◆ 心の健康のための精神・神経疾患の克服(20億円)

(教員)

- うつ病、認知症等は近年増加傾向にあるものの、現在は対処療法的な治療しかない。今後は病気の発症するメカニズムを解明して、疾患の診断、さらには治療のための治験につなげていくことが重要。本事業のような支援の拡充が不可欠である。
- 脳科学研究はその範囲が膨大で複雑であるため、本事業のような疾患に注目した切り口での支援は有効。

◆ 大学発グリーン・イノベーション創出事業(50億円)

(教員)

- 産業界において、環境ビジネスも成長しつつあるが、環境分野においては、まだまだ大学にシーズが眠っている。関連技術を有する大学のシーズをネットワーク化し、事業を支援していただけると実用化に結びつけられる。

◆ 温室効果ガスを削減する革新的技術開発の加速(50億円)

(教員)

- 温室効果ガスの抜本的な削減を実現するような研究は、重要性を認識しつつも、まだ基礎的段階であることやその実現可能性を考慮すると、民間では実施しづらいものであるため、国が積極的に支援をするべき。

◆ 革新的ハイパフォーマンス・コンピューティングインフラ(HPCI)の構築(398億円)

(教員)

- 次世代スパコンを中核とするH P C I が構築されれば、様々な分野における研究成果をより有効に活用することができる。今後の我が国の学術研究の生命線であり、一日でも早い実現を望む。
- 創薬の分野においても、シミュレーションの活用は非常に重要であり、H P C I の構築を期待する。

(学生)

- やはり世界一を目指すべき。人口が減少傾向にあり、資源も乏しい我が国においては、科学技術こそが国力の源。スパコンはそのためにな不可欠なインフラ。H P C I を計画通り完成させてほしい。

◆ 研究成果最適展開支援事業(90億円)

(教員)

- 大学で研究をして特許を取得するだけでは、研究成果をうまく実用化することはできない。投資機関との仲立ちなど、本事業のような国による橋渡しが重要である。
- 民間の資金やアイデアを活用することは、研究に新しい発展・広がりが出るということから有効。本事業はさらに拡充するべき。

◆ 橋渡し研究加速ネットワークプログラム(30億円)

(教員)

- 有望な基礎研究のシーズを実用化につなげるためには、拠点を形成して、資金や人材を集中させることが有効。すでに整備した拠点をさらに強化するため、設備やネットワーク強化などを実施する本事業を拡充すべき。

(学生)

- 医局では、教育・研究・治療で時間と資金のかかる橋渡し研究を行う余裕がない。一方、新しい薬を待ち望む患者を見ていると、自分たちの研究成果を一日も早く実用化して欲しいと思う。橋渡し拠点支援は是非拡充して欲しい。